

## <学校評価>

### 1【成果】（85%以上の項目…そう思う，大体そう思う）

#### (1) 生徒アンケート

「あいさつ」…89%，「思いやりの指導」…85%，「いじめ・暴力ゼロ」…95%  
「公共のルール，マナー」…93%，「生活指導」…88%，「防災指導」…92%  
「対話的な学び」…85%，「コミュニケーション」…85%，「学校行事」…86%  
「部活動」…85%

#### (2) 保護者アンケート

「学校教育目標」…89%，「進んで公開」…89%，「通信の適正」…92%  
「あいさつ」…85%，「学校が楽しい」…85%，「学校行事」…87%  
「部活動」…86%

#### (3) 教職員アンケート

「学校教育目標」…94%，「進んで公開」…92%，「傾聴」…88%，  
「通信の適正」…90%，「思いやり」…88%，「いじめ・暴力ゼロ」…92%  
「あいさつ・マナー」…86%，「進路指導」…87%，「わかりやすい授業」…87%  
「学校が楽しい」…94%，「学校行事」…95%，「部活動」…90%

### 2【課題】（30%以上の項目…そうは思わない，あまりそうは思わない）

#### (1) 生徒アンケート

「学校教育目標の意識化」…36%

#### (2) 保護者アンケート

「学校教育目標の意識化」…35%

#### (3) 教職員アンケート

「共通理解・同歩調の生徒指導」…31%，「学校教育目標の意識化」…47%  
「コミュニケーション能力」…36%

### 3【考察】

年度当初に三つの重点「白山ブランドの構築」「研究&課題」「連携推進」を掲げて取り組んできました。特に「ブランド構築」と「研究」については、途中評価を入れながら改善を図ってきたところです。その結果、「あいさつ」については、生徒会の活動が組織されたことと教職員の積極的な働きかけによりかなりの改善が見られるようになりました。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」についても生徒・教師共に意識して取り組めるようになってきています。いじめについても授業改善や行事，生徒活動を通して適切な人間関係を構築しながら大きく改善されてきています。昨年度の重点目標にもなっていた「コミュニケーション能力を高める」ことについても、まだまだ課題はあるものの、教職員の意識も上向き，かなり改善されてきていると考えています。

課題としては、「学校教育目標」を覚えても，日々の教育活動でそれが意識されていないという実態です。「みがき合うこと」「支え合うこと」「心豊かで」「たくましい」という言葉が，知徳体のバランスのとれた教育活動につながっていかねばならないと思います。今後も機会あるごとに教育目標と校歌を意識させ，ブランド力のある教育活動を推進していきたいと考えています。

### (1) 【目指す生徒像】

- ・自ら学び，思考，表現する生徒… 7、12、
- ・情操豊かで品位ある生徒… 1、3、6
- ・思いやり，助け合える生徒… 2、4、5
- ・健康でたくましい生徒… 11、13、15

生徒アンケートでは、どの項目とも80%を超える生徒が、概ね良好と答えている。特に「あいさつ」は向上した。

### (2) 【求める教師像】

- ・白山中が一番好きな教師… 47%
- ・信頼関係がしてくれる教師… 92%
- ・生徒の気持ちがわかる教師… 94%
- ・学び続ける教師… 92%

「白山中が一番好きな教師」という項目が低い。その意味を共有する必要がある。他の項目は、かなり意識が高い。特に今年度は生徒理解を意識して取り組んできた。

### (3) 【ブランド構築】

- 授業改革…「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」はかなり意識され，実践が始まっている。
- 心の教育…道徳や人間関係づくり，いじめ対策，生命尊重，思いやり等に関する項目は，まだまだ改善の余地がある。長欠対策は全校体制で取り組むことができた。
- 安全安心…体力向上や防災については，部活動や冬季トレーニング，防災訓練等がシステム化されて取り組まれている。教育相談やメンタルヘルス等については，傾聴のスキルを大切にしながら進めており，改善が図られてきている。食育や保健指導については，啓発活動が推進され残菜の減少やインフルエンザ等の蔓延防止につながった。
- 生徒主体…体育祭や合唱コンクール等の歌声に留まらず，「挨拶運動」「右側通行」「無言清掃」等の生徒活動が主体的に運営された。部活動への積極的な参加も推進され，実績も上がった。
- 三つの伝統…「明るく元気な挨拶」は生徒会や部活を中心に推進された。「美しく響く歌声」はコンクールへの取り組みだけでなく日常的に取り組めた。「心を磨く清掃」に対する取り組みが3学期に入って活発になってきた。

### (4) 【研究&課題】

- 「自ら共に学ぶ生徒の育成」～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～  
年間で3回の授業研究を全職員参加で進めることができた。特にAL（アクティブ・ラーニング）については，意識的に取り組むことができた。道徳の教科化に向けての研修も効果的で，次年度への準備にも目が向けられるようになった。
- 「わかる・できる授業」…自己決定・自己有用感・共感的な人間関係といった生徒指導の機能を生かした授業づくりがALにつながり，効果が現れるようになった。
- 「インクルーシブ教育」…合理的配慮の中で個別の支援計画や個別の指導計画を意識し，取り組むことで，個別の支援体制が組まれるようになってきた。
- 「考え・議論する道徳」…「道徳科」に向けての校内研修が進められ，教師の意識が高まった。

### (5) 【連携推進】

- 小中連携…「小中一貫の日」インフルエンザ予防のため十分な連携ができなかった。
- 中高連携…進路選択に絡めた高校訪問や高校説明会の実施が効果的であった。
- 家庭連携…情報発信が一方向にならないよう配慮が必要。家庭への理解を十分に求める手立てを工夫していかなければならない。
- 地域連携…学校支援ボランティアのニーズを掘り起こし，地域人材を活用する必要がある。
- 関係機関連携…行政機関（市教委・子ども相談課等），警察，児相，学校医との連携が図れた。

(6) 【次年度に向けての課題】 <人間教育の場としての白山中を目指す！>

- ① 「人間関係づくり（コミュニケーションスキルの向上）」による長欠対策・いじめ対策  
・「アクティブ・ラーニングによる授業改善」を推進し、生徒指導の機能を生かした「わかる・できる授業」を実現させる。  
・S G E（構成的グループエンカウンター）やS S T（ソーシャルスキルトレーニング）、ピアサポートプログラム、コーチングスキルトレーニング等を意図的に導入する。  
・「楽しい学校づくり」を目指した主体的な生徒活動，学校行事，部活動の実現を図る。
- ② 「キャリア教育」を推進し，計画的な進路指導の実践を図り，総合的な学習の時間の全体計画や単元計画を見直す。
- ③ 「学力向上」のための地域人材の活用や地域貢献を見据えた防災訓練の実施等による地域連携の推進を図る。
- ④ 学年・学級経営に関するマネジメント研修の推進を図る。
- ⑤ 生徒指導方針の見直しと指導スキルの向上を図る。
- ⑥ 情報発信と情報共有の推進を図る。